

分野別方針18 生涯学習

～まち全体をまなびやに 大人が学び子どもが育つまちをつくる～

基本方針

「豊かな人生は学びとともにある」という観点から、京都ならではの「地域力」「人間力」「文化力」を結集し、まち全体を学びの場とすることで、子ども・若者から高齢者まであらゆる世代の市民誰もが学ぶ喜びを実感し、社会を創造していけるまちづくりを進める。

また、次代を担う子どもたちを市民ぐるみで健やかに育むために、「子どもを共に育む京都市民憲章」の実践に向けた取組を市民ぐるみで推進する。

現状・課題

- 大学、博物館、文化財、伝統産業から先端企業などが集積する京都市の都市特性と、京都ならではの様々な人の繋がりを生かし、生涯学習施策を総合的・体系的に推進することができている。
- 各市立図書館や生涯学習総合センターはもとより、学校が地域の「学びの拠点」として定着し、市内のあらゆる場での学びと交流が進んでいる。
- 一方で、子どもからお年寄りまで幅広い市民の多様な学習需要の適切な把握と、それに応じた情報の提供や、学習機会の充実などにより、市民の学習の場への参加促進を進める必要がある。
- また、家庭や地域の教育力の低下が懸念される中、子育て支援や父親の子育て参加、地域の教育活動の活性化など、地域ぐるみで子どもを育む取組を一層推進することが求められている。さらに、子どもを取り巻く様々な今日的課題を、社会全体の課題として正しく認識し、子どもを共に育む京都市民憲章の理念に即して、大人たちがそれぞれの立場で子どもたちの健やかな育ちに関わる取組を進める必要がある。



IT時代に対応
右京中央図書館「電子メディアゾーン」



政策の目標

<みんなで目指す10年後の姿>

- 行政だけでなく、様々な団体が実践している生涯学習の場（情報）を有機的に結びつけ、一元的に案内・発信し、社会全体で共有することにより、子ども・若者から子育て世代、高齢者、障害のあるなしに関わらず、生涯学習の主人公である市民一人一人が手軽に学習の場を選択し参加できるまちとなっている。
- 「学び」の成果がボランティア活動等に生かされるなど、「学び」が相互につながることで、市民一人一人の「学び」が京都の未来を創造する原動力となるようなまちとなっている。
- 世代間交流の場をあらゆる場面で設けることにより、学びが高齢者、親世代、子どもたちへとしっかりとつながっていく「学びの循環」を実現できるまちとなっている。
- 全ての大人たちが「子どもを共に育む京都市民憲章」の理念を意識し、行動することで、社会の宝である子どもを市民ぐるみで育むまちとなっている。

<政策指標>

	指標	現況値	目標値
1	京まなびネット・みやこ子ども土曜塾ホームページ登録事業数	2,200 事業	3,000 事業
2	子どもを共に育む親支援プログラム参加者	—	10,000 人
3	京都市立図書館登録者数	38 万人	43 万人

市民と行政の役割分担と共汗

